



月刊労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(労働車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936番

(公) 千葉 (22) 7207

91.9.2 No. 3456

JR体制を直撃する

バブルの崩壊

全国労働者集会 9.8不成功！

(下)



争議団・闘争団を 先頭に國鉄労働運動 の前進を誓った！

(3月3日労働者集会)

組合員は、七月二十日からの中労九・八集会の大成功をかちとろう。

第二に、いつさいの裏切りを許さず、清算事業団闘争の勝利をかちとるためにたたかうということである。

情勢の激動化に動転し、しりどみする国労一部指導部は、出向協定締結の裏切りについて、今後は「和解」という名の闘争団切り捨て、国労の連合化の策動を強めている。

だが、闘争団をはじめ闘う国労闘う多くの仲間の期待に応え、反対する闘う国鉄労働者の大同団結をさらに圧倒的に押し広げることが勝利への道である。

いつさいの裏切りを許さず 清算事業団闘争の勝利を

JR東日本の「フューチャー21」、「五万人体制」計画は、JR經營が破産的状況におちいつていてもかかわらず、あくまでも利潤を目的とする「民営会社」として存続しようとするところからひねり出された途方もない合理化攻撃である。

経営計画では「鉄道部門の収入と関連事業収入を一对一にする、その過程で鉄道部門の労働者を現在の六万五千人から五万人にまで削り、削減要員は関連会社に出向させる」としている。具体的には、「動乗勤」の改悪、

Rの安全問題について、「一連の事故は、国鉄時代には考えられないものであり、JRが鉄道のシステムを破壊した結果だ」と「告発」しているのである。

その第一は、「五万人体制」合理化的中心軸をなす「動乗勤」改悪との闘いである。この闘いは、同時にJR総連革マル徹底弾劾の闘いでもある。

われわれは、まず何よりも、「全乗務員の敵・革マル打倒」の大旋風を直ちにまきおこすことから始めなければならない。

**JR
東日本**

耐えがたい労働強化。
事故多発を省く
「五万人体制」合理化

新検査方式の導入による検査修繕の大巾省略化とOA化、工事施設のロボット化・ライン化、駅改札の自動化等々による徹底した要員の削減と長時間変則労働の導入・極限的労働強化を狙っている。

耐えがたい労働強化のおしつけと事故多発をまねく「五万人体制」攻撃を断じて許してはならない。

ここにいたって、われわれの結論は鮮明である。反戦・政治闘争と結合し、「JR体制」との新たな闘いを、現場から創り出すことである。

9.8

講演 岩井 章氏 (元総評事務局長)

○ときどき 東京・南部労政会館
(京浜東北線大井駅下車・徒歩10分)
○集合 千葉駅発(3番線)
11時25分発・快速最後部

